仙台育英学園
同窓会々報

発行所　仙台育英学園同窓会
〒983 仙台市宮城野区宮城野二丁目4－1
TEL 256－4141
編集　仙台育英学園
発行人　同窓会事務局
印刷所
㈱トーヨープリントセールス
TEL 225－8771

母校の発展と共に

仙台育英学園同窓会
会長　小坂信雄

酷暑の記録更新と騒がれた夏も去り、秋風がさわやかに感じられるようになりましたが同窓諸兄姉には壮健にご活躍のこととお慶び申し上げます。

本会も母校のすばらしい興隆と共に会員も四万を超え、その母校愛に支えられて円滑な運営を続けておることは誠に同慶に堪えません。

我が母校仙台育英学園は、創立百年と新なる世紀に向け加藤校長先生を中心に学園を挙げてその充実と実践に努力され、躍進に躍進を重ねて今や全国屈指の私学の先達として隆盛を辿り、これが生徒の減少期にも拘わらず逐年志願者、入学者が増加しておることは地域社会の信頼と期待の表われと私共同窓生の誇りと致すところであります。

今春から新しく松島研修センターの敷地に松島校舎が開設され、風光明媚で閑静な環境の中で教育指導が始められ、県東部地域の高校教育の一翼を担うことになり、これからの成果が期待されています。

学園の整った教育環境と熟達した指導により今春も、東京大学、慶応義塾大学など全国の大学に六百名を超えて合格者を出すなどすばらしい成績の向上を続けております。

スポーツも昨年は卓球の全国制覇、陸上競技の全国制覇など県全体が暗いムードの中に明るいニュースを提供したことはご承知の通りであります。

本年度も昨年以上にインターハイ、国体その他の全国大会に多数が出場し好成績を上げております。硬式野球部の甲子園大会では強豪の二校を破り全国を沸かせ、仙台育英健児の意気を示されたことは喜びに堪えず、選手の皆さんのご健闘を讃えたいと存じます。

次に、会の運営について報告をいたします。

会員の増加に伴う運営の在り方について役員会などで数年前から検討を重ね、結論に達した部分について昨年度総会に提案し、ご審議をいただいて本年度から実施いたしました。

総会については、会員の増加の割合には出席数が芳しくなく、運営上の懸念も考えた結果、代議員構成により充実した審議を期待することにいたしました。

代議員の構成は、卒業年度、職場、支部、グループ等から広く委嘱することになりましたが、会員の親睦を図る会の目的をふまえて、三年目毎とし、母校の種々の記念にあたる年は、これまで同様全員が参加する全体総会を開催することになりました。

最近の会務増加対策として役員会の中に常任役員会を設置いたしました。また、学園の発展に対応して宮城野、多賀城それぞれの校舎に事務局次長を委嘱して、会務の迅速な処理と会員との連絡の緊密化を図ることになりました。

本会が会員と連携を一層深める目的で会報発行事業を行なっておりますが、当初の年二回発行が会員増加及び経費の増大により現在は年一回の発行になっております。最近は印刷部数の削減に加え昨秋郵便料金の値上げにより通信費が全予算の四割以上となり、会の運営にも支障を生ずる状況になりました。

現在の社会事情から在校生による永年会費の改正も困難なことです。解決策の暫定措置として、会員各位に会報発行協力金の據出を当分の間協力していただくことになり、総会の承認を得て実施いたしました。多数の方々からのご理解をいただきこれを本会の通信費に繰り入れて会報発行をいたすことになりました。

各位のご協力に深く感謝申し上げ、これを契機に一層充実した会報を発行するよう努力する所存であります。

懸案事項については、役員並びに会員の方々と共に検討し改善をはかっていきたいと思いますので、今後とも本会の発展にご協力下さるようお願い申し上げます。

最後に、本会運営にお力添えをいただいておる加藤理事長・校長先生始め母校の教職員の先生方に深甚なる謝意を表し、会員及びご家族のご健康と繁栄を祈念いたし挨拶といたします。

新しい時代に向けて 力強く前進したい

名誉会長
理事長
校長　加藤昭

昨年秋に迎えた創立者加藤利吉先生生誕百十一周年、学園創立八十八周年ーそれから一年。仙台育英学園の歴史には大きな躍動の記録が輝かしく刻みこまれました。

スポーツに次々と感動の記録が・・・

猛暑の中、大きく燃えた今年の夏。ひときわ目立ったのは甲子園大会（硬式野球）でした。天理、北陽といった優勝候補を劇的なサヨナラ勝ちで連破し、全員の力を結集してベスト8に駒を進めた感動の余韻は今なお新鮮です。

インターハイ（富山県）での卓球女子、陸上競技の優勝もまた校史の一ページを飾るにふさわしい重みを持つものでした。各地の学校が選手強化に力を入れてレベルが接近している中でのこの成果は、まさに称賛に値するものといえるでしょう。ゴルフ、馬術でも全国優勝を果たし、軟式野球でもベスト8をかち得るなど、今年の夏休みは仙台育英の勢いを象徴するかのようにスポーツにわいた毎日でした。

この勢いは秋の諸活動にも受け継がれております。昨年十二月に京都で開催された全国高校駅伝で史上初の男女共優勝の偉業を成しとげましたが、過日の県大会でも圧倒的な強さを発揮して、昨年に引き続き全国大会出場を決めました。またラグビーも県で優勝して十八年ぶり二度目の全国大会（花園＝東大阪市）に臨みます。硬式野球は秋の東北大会決勝で東北高に大勝し、春の選抜（甲子園）出場が期待されております。そして過日、サッカーも二年ぶり二十四回目の全国大会（東京）出場を果たしました。

五十三名が宮城県選手団に選ばれて参加した秋の国体（愛知県）では本校単独チームである少年女子卓球が見事準優勝の栄誉に輝きましたが、硬式野球、軟式野球の第三位も見事なものでした。次々と新しい感動を創り出して行く本校生のひたむきな姿を誇りに思っている次第です。

進学でも今年は更に大きく前進

スポーツばかりではありません。今、仙台育英が最も注目され、世の高い評価を受けているのは大学進学への取組みといえます。

大学合格者の数は年ごとに大きく伸びて来ました。一昨年は四七四名、昨年は五三七名が合格しましたが、今年は一〇〇名増えて六三七名。現役合格率が非常に高く、東大、一橋大にも現役合格が誕生しております。東北大も十二名中医学部を合む十名が現役でした。

今、本校では合格七百名突破を目指して、進学指導の見直し等も行いながら努力を続けておりますが、ここにも勢いを感じさせられるものがたくさんあり、その実現は遠くはないと期待します。

不況の中にもかかわらず就職も一〇〇％達成することができました。

他校も追随、県下初の本校総合コース制

進学にせよ、スポーツにせよ一日にして成るはずはありません。八十八周年を迎えた大きな歴史的な基盤の上に立って、常に先を見通しながら新しい営みを本校は模索して来たつもりです。しかも他に先がけて実践にふみ切ったものが多いといえます。

昭和五十九年、宮城県内では初めて実施した本校の普通科総合コース制は、今になって他校でもこれと似た制度を導入しておりますが、本校の成果が大きな引き金になっていることは確かです。

国際理解教育は更に歴史が古く、取り組んでもすでに三十年余り。他が関心すら持たなかった時代にまでさかのぼります。国際姉妹校も現在はカナダ、アメリカ、ニュージーランド、スウェーデン、ケニアの五カ国二十校にものぼり、留学ばかりでなく、イギリス、カナダへの語学研修、外国語コースのイタリア知識旅行、今年は更に教養コースのハワイ研修も実施することになり準備が進んでおります。外国とのスポーツ交流もますます盛んになってきました。

外国からの生徒と机を並べたり部活動に励むことに違和感のない本校はわが国における国際理解教育のパイオニアであったと思っております。

各コースに最適の学習の場が実現

多賀城に大きな文教地区が形成されつつあることは前号でも紹介しましたが、その後サウスウイングが昨年十二月に落成し、この八月二十五日には校舎とグローリーホールを結ぶペデストリアンデッキの全体が完成の運びとなりました。また四月には松島研修センター用地内にしょうしゃな松島校舎もできあがりました。このことによって、宮城野（外国語、教養）多賀城（特別進学、英進）松島（国際教養＝今年度新設）と、それぞれの立地を生かして、それぞれのコースに最適の教育の場がつくり出されたことになります。

そのための各校舎の環境整備にも意を用い、LD、LLといった最新の教育技術を駆使する特別教室やビームライフル室（宮城野校舎）などは他のせん望の的でもあります。

世の期待に応える教育の具現目指す

今年の生徒数は五千四百名近く。開校以来の人数です。本校に対する世の期待をもの語るものであり、責務の重大さを痛感しているところです。

学校に勢いが感じられる今、このような時だからこそ、一層自重して一歩々々力強く仙台育英の前進を図り、世の期待に応えなければならないと考えます。

同窓生各位のご健勝を祈り、今後のご支援も願ってやみません。

『燃えた仙台育英』スポーツの記録

全国高校総体（富山）

【優勝】▽卓球女＝団体、ダブルス（益田志保、米倉知子）▽陸上男＝一五〇〇㍍（D・ジェンガ3分43秒43＝日本高校新）五〇〇〇㍍（J・マイタイ14分12秒62＝大会新）三〇〇〇〇㍍障害（D・ジェンガ8分43秒51）▽陸上女＝三〇〇〇㍍（菅原美和9分17秒91）

【準優勝】▽陸上男＝団体総合

【第4位】▽陸上男＝一五〇〇㍍（J・マイタイ3分48秒71）

◎出場　7種目　61名

第76回全国高校野球選手権（甲子園）

【ベスト8】

第39回全国高校軟式野球選手権（明石）

【ベスト8】

第4回世界ジュニアゴルフ選手権（岐阜）

【優勝】星野　英正

第5回全日本馬術選手権（東京）

【優勝】尾形　和幸

◇今後の全国大会出場（決定分）

全国高校駅伝（京都）＝12月25日
全国高校ラグビー（花園・東大阪市）＝12月27日から
全国高校サッカー（東京）＝12月30日から

第5回世界ジュニア陸上選手権（リスボン）

【第8位】女三〇〇〇㍍（菅原美和）

第78回日本陸上選手権（東京）

【優勝】男三〇〇〇㍍障害（D・ジェンガ8分19秒21＝世界ジュニア新）

宮城県高校総体

【優勝】▽柔道女▽器械体操▽卓球男▽卓球女▽ラグビー▽軟式野球▽ハンドボール

【準優勝】▽柔道男▽バレーボール女▽ボクシング▽硬式野球▽陸上競技女▽レスリング▽水泳男

【第3位】▽テニス男▽ソフトテニス男▽馬術▽サッカー

【第4位】▽陸上競技男▽水泳女

第49回国体（愛知）

【準優勝】卓球少年女

【第3位】硬式野球、軟式野球

◎出場　10種目　53名

プロ野球ドラフト

【第1位指名】

金村秀雄（日本ハム）

支部便り

我が学舎に栄光あれ

宮城野会会長
仙台南警察署長　高橋　徳郎（昭32卒）

昭和三十二年に卒業して宮城県警察官を拝命、今年で勤続三十七年目になりますが、宮城県警に勤務する同窓生二百十人で組織する「宮城野会」の会長を務めさせていただいております。

今、高校時代を振り返ってみますと、昭和二十九年に入学した私は、剣道部に入学、竹刀に袋をかぶせ、フェンシングのような防具をまとい、ひとつしかない体育館を他のクラブと場所を取りあいながら練習をやるといった毎日でした。

試合では、県内で三回戦どまりでしたが、三年間の剣道で磨いた気力、体力、精神力は、警察という職業を選択するときの大きな礎になったことは言うまでもありません。

さて、我が母校は、生徒数四千人を数えるマンモス高校に成長、毎年、校内に掲示される数多くの大学合格者名を目にし、仙台育英の名を全国に轟かせる各種スポーツなど、後輩の大活躍を耳にするとき「文武両道我が育英にあり」と誇らしげになるのは、私ばかりではないと思います。私ども二百十人の県警同窓生も、後輩の皆さんに負けないよう県内二十五の警察署において、それぞれのポストで県民生活の安全と平穏を確保するため日夜頑張っております。また、「宮城野会」が、県警内の出身高校別では最大の組織となり、毎年、一、二名の後輩が社会正義を実現するため、新たに県警察組織の一員に加わっていることは、私としても心強い限りであります。

後輩の皆さん、どうか二十一世紀の新しい担い手として、勉学にスポーツに大いに頑張って下さい。

仙台育英岩沼支部報

幹　事
東石運輸㈱社長　小野　晋一（昭30卒）

岩沼支部が発足してから早四年になります。その間学校当局、同窓会本部の御指導と当支部高橋支部長をはじめとする役員の御尽力により支部活動もようやく軌道に乗ることができました。

岩沼支部は、昭和六十二年頃、岩沼在住の同窓生の中で支部を結成しようとする気運が高まり、岩沼在住の同窓会本部役員を中心に発足準備を始めたのでした。同窓会本部の指導助言をいただき会費、会則等々の難問もクリアし平成元年発足準備会が活動を始めました。会員も岩沼在住から岩沼付近に在住又は勤務地を有する同窓生と枠を広げ、平成二年十一月に発会式兼第一回総会に漕ぎ着けたのです。

私は昭和二十四年、当時の育英中学に入学し昭和三十年に育英高校を卒業しておりますが、支部内においてはまだまだ若手であります。支部先輩の学生時代の貴重な体験談を聞く機会に恵まれ、加藤利吉先生の話、建学当時の苦難、戦時中の教練等我々が在学中には考えられない事ばかりでありつくづく平和な時代に在学したものだと思うのであります。しかし変らないのは建学精神であります。私は岩沼で小さな会社を経営しておりますが育英で学んだ根性を忘れず苦難を乗り切ったのであります。その間、思わぬ人が同窓生とわかり、いっそうつながりを深めたこともありました。支部活動を通じて新しい出合を求めていきたいと思います。又各地に支部が発足し、交流できることを楽しみにしてます。

塩釜支部

会　長
㈱丸要漁業社長　佐藤　吉男（昭30卒）

塩釜支部は、塩釜市、多賀城市、松島町からの同窓生により平成五年に結成され、現在の支部会員は五十二名です。第一回塩釜支部同窓会は、平成五年十月に塩釜市内ホテルふみやで盛大に開催されました。母校からは多数の先生方が出席され、母校建学の精神を胸に、青春の思い出、そして現在に至るまでの個々の経験、将来への未知なる体験への希望などを延々三時間にわたり語り合いました。

我が支部登録者は、会社経営、商店主、鮮魚商、運送業、銀行員、遠洋漁業船主、自動車業、公務員、商事会社、不動産業、建設業と種々さまざまな仕事にたずさわり、地場産業発展のため、あるいは、地域住民の幸福を願い、第一戦で働いている方々であります。東北地方の飛躍を求め頑張っており、二十一世紀に向けての展望も明るいものを感じます。

現在の日本は、内外共にさまざまな問題でゆれ動いておりますが、実働を通して、正しく、誠実に、一歩一歩確かに歩む自らの力を信じ、地道では言うまでもありますが、正々堂々真すぐに進路を取りながら、仙台育英で学んだ逞しさ、力強さを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓生皆様のご健康と母校の益々の発展・全国的なご活躍をお祈り申し上げます。

がんばっています 仙台消防五城会員

仙台消防五城会会長
仙台市消防局警防部長　三浦　勝介（昭32卒）

「天下の英才を集めてこれを教育す」これが校名の由来であると在学中に教えられました。

最近の母校の活気漲る隆盛ぶりを見ていますと正に校名に恥じない充実した教育が行われていることに驚嘆しています。

校名の由来に続けて先生曰く「君達のような鈍才を教育するのも教師としてやりがいがある。これも学校としての使命である。」と、昭和中期頃の話であります。

豊かな人間性を養うためには、選賢による秀才集団よりも母校の伝統である玉石混淆集団の方が効果があると思います。

仙台市消防局には、職員九三九人中一二〇人（大卒を含む。）の同窓生が勤務しています。

六消防署のうち、一時は三署の署長を同窓生が占めるなど主要なポストで巾広い知識と柔軟な思考力そして温みのある情でもって職員を統率し市民の財産と生命を災害から守るため頑張っております。

また、本年四月からは、仙台市消防の最高責任者である消防局長に同窓生の佐藤文彦氏（昭31卒、市役所上級職）が就任され、同窓生一同ますます張り切っているところであります。

一般に消防というと、ポンプ車等による火災現場での活動、救急隊の活動、レンジャー隊の活動、ヘリコプターによる活動などが業務であるかのように思われていますが、これらの現場活動は消防業務の一部でしかありません。

そこで、各ポジションでの同窓生の仕事ぶりを覗いてみたいと思います。

▼青葉消防署予防課
建築保安係
伊藤　浩一（昭58卒）

市民がビル、マンション等を建てる場合は、市に対して許可又は確認の申請をし、許可等を得ることになっています。

市では、消防の同意がないと許可等を与えない仕組みになっています。

伊藤君は、この同意の可否について建築基準法、消防法その他の法令を基準に申請書の審査を担当しています。

同意後は、当該建物の工事中間検査、完成検査を行い、不備欠陥箇所があった場合はビシビシと改修させ業者から恐れられています。

▼消防局警防部予防課
危険物係
管野　清和（昭47卒）

塩素酸塩類、マグネシウム、石油類等の危険物を一定数量以上を貯蔵又は取扱う場合は市長の許可を必要とします。

一般的なものとしては、ガソリンスタンド、ボイラー用の燃料タンク、大規模なものは東北石油の製油所、火力発電所などが対象となります。

許可申請書の審査から工事中の検査、完成検査までを管野君が担当しています。

▼泉消防署予防課査察係
伊藤　孝（昭41卒）

消防署では、一定規模以上のビル等又は危険物施設に不意に立入って、ビル等の所有者又は管理者が消防法令に従って建物等が適正に管理されているか、否かを検査します。伊深君は、消防Gメンとして恐れられているチームのリーダーを勤めています。

消防法令に違反している事実を発見した場合は、建物の使用停止等の行政処分をしたり、悪質な場合は検察庁に告発したりするのが任務ですからかなり神経を使います。

▼消防局警防部司令課
森　雅男（昭44卒）

一一九番の受付、同電話発信地の検索、市内の建築物の規模構造等、各種業務の資料等の管理は大型コンピュータで処理しています。森君は、これらの維持管理、システムの構築などを担当しています。

▼太白消防署警防課
救急隊
遠藤　克己（昭43卒）

救急隊員が行うことができる応急処置の範囲が大巾に拡大されました。

そのためには、救命士の国家資格を取ることが条件になります。

遠藤君は、かなり難関な救命士の資格を一発で取得し、救急隊長として最新の医療機器を駆使し危殆に瀕した多くの生命を救っています。

このほか、様々な分野で活躍していますが、消防の業務は、あらゆる行政の総合版ともいうべき多種多様にわたっています。

我が職場の五城会員は、玉石の石であっても清流の底のキラキラ美しく輝く小石よりも、汚なくて目立つ小石にならないように心がけ、謙虚な気持で堅実な一歩一歩を歩み続けていく所存であります。

母校のさらなる発展を祈念し、擱筆とします。

自衛隊育英会

幹　事　大友　茂良（昭50卒）

私が勤務しております仙台駐屯地仙台育英学園同窓会は、鈴木孝会長を始めとして九十三名の会員で構成され、私は現在会の事務局に於て会務運営の企画・実行、駐屯地内の各部隊の分会との連絡調整を担当しております。会としては、毎年母校から先生方をお迎えしての定期総会・懇親会や新入会員の歓迎会、母校の行事であります校内マラソン大会支援（豚汁作り）、甲子園出場激励金、同窓会総会参加などが主な活動です。私も昨年初めて同窓会総会に参加させて頂きましたが、懇親会では先生方を始め諸先輩と気軽に話しを交して頂き楽しい一時を過ごしました。また、今年の四月の始めに、母校から男子陸上競技部の二階堂先生とケニヤからの留学生二名が私の所属する第二特科群に講師として訪問して頂きました。その頃、部隊は東北方面内で行われる部隊対抗駅伝大会に向けて猛特訓の最中であり、先生の練習への取り組み方から練習方法等貴重な体験談の講義を拝聴し、選手隊員の大きな励みにもなりました。

剣育会の活動

剣育会会長　鈴木　正志（昭31卒）
㈱シャトレーイン仙台取締役料飲部長

本会は、昭和三十一年剣道部で組織されて以来年々会員数も増して今や二百有余名を数えております。会の目的としては、在校生との交流並びに支援、会員相互の親睦、剣道を通しての各種大会に参加し親善を図ることを目的として活動しています。

会員の職業は多種多様で会社員、サービス業、教員、警察官、自営業等それぞれの道で活躍している姿は実に頼もしい限りです。中でも高橋徳郎君（昭32卒）は卒業後、警察官として奉職し、今春の定期異動で東北管区警察学校指導部長から仙台南警察署長に栄転し、第一線で頑張っています。また、菅谷正吾君（昭32卒）は卒業後、東北大学の事務職員として採用されて以来各地の国大を転任し、現在は旭川医大の総務部長として活躍しております。

本会は仙台市剣道連盟に加盟しており、春季・秋季の市民大会には毎回出場し好成績を上げています。最近では、千田直樹君（平4卒）が昨年の春季・秋季市民大会個人戦三段以下の部で連続優勝という輝かしい成績を収め、団体戦では昨年秋季大会三位入賞、今年の春季大会では準優勝に輝いています。また、第二十六回東北・北海道対抗剣道大会（昨年七月四日、於登米郡迫町体育館）では、青木康博君（昭57卒・松島中教員）が東北軍二三将として出場し活躍、浜崎敏之君（昭54卒）も補員に名を連ねました。

昭和五十二年、東北学院高剣道部OBと本会との相談により定期戦の企画が出来て、当年八月、第一回TG剣友会対剣育会の定期戦が東北学院高で開催され、以後毎年八月最終日曜日に会場持回りで開催して熱戦を展開しています。試合終了後は両チーム合同で懇親会を開いて親睦を深めています。今年は第十八回を数えるに至り、八月二十八日母校を会場として開催されます。

最後になりましたが、母校並びに同窓会の益々のご発展と同窓生皆様のご健勝を祈念申し上げます。

大会の結果は、惜しくも優勝を逸っしましたが、来年に向けて頑張っております。

末筆ながら、自衛隊育英会（仙台駐屯地同窓会）も微力ではありますが母校に対し側面よりご支援をしていきたいと思っております。母校、同窓会の益々のご発展をお祈りいたします。

東京支部・我が育英時代

東京支部長　福来　實（昭20卒）

❖ 東京支部活動状況

一月　サッカー応援（出場時）
三月　高校野球選抜東京駅にて見送り（出場時）
八月　高校野球東京駅にて見送り（出場時）
八月　本部同窓会出席
九月　幹事会（総会準備）
十月　〃
十一月　〃
十二月　東京支部総会幹事会

総会の反省及び次年度の予定

◇支部総会の様子

平成五年度は十一月二十一日（日）銀座レストラン高松にて開催。学校より加藤校長先生はじめ八名の先生方、又同窓会会長の小坂信雄氏も出席して頂き感謝しております。校長先生から母校の現在の活動状況、学業に運動に年々飛躍している母校の姿を聞き、東京支部の会員一同年一回の総会を楽しみにしています。

我が育英時代

私共のクラスは、昭和十六年、日米開戦の年に入学し、敗戦の昭和二十年に四年で繰上げ卒業という戦争の激動まっただなかの学園生活でした。

軍隊と同じカーキ色の制服と戦闘帽、登下校には必ずゲートルを巻くこと。さらに先生や上級生と道ですれ違うときには直立不動の姿勢で立ちどまり挙手の礼をとることが義務づけられておりました。

クラスの担任は英語の佐藤正学先生で、そのきびしさは、到底今の時代では考えられないほどです。たとえば、午前中の体育の時間にクラスの誰かが少したるんでいたと体育の先生から担任に告げられるものなら一大事です。昼食も休み時間もゆるされず佐藤先生の叱責で終始し更に午後からの授業が終ると、クラス全員が往復ビンタの洗礼をうけます。よく漫画のなかで、なぐられると星が飛ぶ絵が描かれていますが、まさにその通りでなぐられた瞬間、目の前がまっくらになって頭の中で星が尾をひいてとぶものでした。幸か不幸か担任は、入学から卒業まで四年間変ることなく、佐藤先生でした。

はっきりいって、このような鉄拳の制裁は月に何度かありました。我々生徒の方も慣れてきて、またかぐらいのふてぶてしさをもつようになってきました。戦争や暴力を背定するものではありませんが、当時の国情や、真摯な態度で指導された佐藤先生によって、忍耐と努力の精神が培われたと思います。

昭和十八年には学校でまだ授業がありましたが時々、勤労動員で色々なところに出かけました。船岡の海軍工廠の防空壕作りや草むしり。松島近辺の鉄道線路の敷設など真夏の酷暑のなかで大変つらかったことを覚えています。

昭和十九年ごろになると戦局はいよいよ深刻になり生徒たちも軍需工場に本格的に動員されることになりました。

その時の壮行会の記念写真が手元に残っていました。クラス全員が写っていますが、最前列に腰かけている生徒十名の足もとを見ると、

下駄ばき　七名
地下たび　一名
はだし　二名

靴をはいている者は誰も居なかったのには今さらながら驚いています。

しかし、みんな貧しくても生徒全員が胸をはり目はキラキラと輝いていました。

昭和二十年には、五年生の卒業と四年生のくり上げ卒業が重なって、いつもの倍の人数が受験することになりました。

当時は学徒動員で工場通いですから、学校での授業はなく、塾もありません。ひたすらただ一人で勉強して頑張るのみでした。私共四年一組は、そのとき予想以上の人達が受験に合格しました。私も慶応大学医学部予科に入学しました。

敗戦のなかを卒業して五十年。紆余曲折の道を忍耐・努力の精神を失わず好きな仕事を楽しみながら勉強をしております。

我が母校で感じたこと

東北大育英会幹事
東北大学薬学部教授　大泉　康（昭36卒）

私が育英学園高等学校を卒業したのは、昭和三十六年で、三十年以上も前のことです。「光陰矢のごとし」と今さらながら実感させられます。最近、母校を訪れたときに感じたことは、教育に情熱を燃している教職員にお目にかかり、近代的な施設・設備を拝見し、きわめて恵まれた教育環境で学ぶことのできる後輩諸君は、誠に幸せであるということです。それを裏付けるように、最近の母校の飛ぶ鳥を落すような発展ぶりには目をみはるものがあります。まず第一に最近の大学進学における輝かしい成果で、加藤校長先生をはじめとする教職員、生徒諸君の日頃の努力には頭が下がる思いが致します。適性と進路に応じた適切なコース制が導入されており、個性を伸ばす細やかな配慮がされていることが、その成果につながっているのです。第二に校舎に飾られている数多くのトロフィーや賞状から窺うことができる運動部および文化部のレベルでの大活躍をあげることができます。我が母校の最大の特徴は、文武両面にわたり、バランスのよくとれた教育が行われていることで、どのような時代の変化にも柔軟に対応できる優秀な人材を養成していることです。

大変おこがましいことですが、若い後輩諸君にお目にかかると申し上げたいことがあります。若者の特権は、輝しい未来があることです。今までは、短距離ランナーとしての能力を試されてきた傾向があったと思いますが、実際は長距離ランナーとしての力を貯えることが大切です。長距離レースをスタートしてみると予期せぬでこぼこ道や大きな壁（社会の不公正さとか矛盾に満ちたことなど）に遭遇し、落胆することもあるでしょう。長い長い道程を走るのですから、そんなことにはめげずただひたすら走ることです。自分の能力を長い目で見てじっくりと確かめて見ることが肝要です。どうか勇気と希望をもって前進することを切に望みます。

私が日頃最も誇りに思っていることは、我が母校の創立者の加藤利吉先生の建学の精神「至誠」、「質実剛健」、「自治進取」が充分に浸透していることです。卒業生の多くが広い分野で活躍して高い評価を受けていることから窺えることです。数年後に迎えた二十一世紀は高度科学技術化、本格的な国際化時代であると言われております。教育界では、このような激動の時代の要請に応えうる人材の養成が急務であると思われます。母校が我国だけではなく国際的な観点からも高い評価を得るために、在校生はもとより特に若い卒業生のさらなる御活躍をお祈り致します。

会員寄稿

教育実習を通して思うこと

東北大学大学院
国際文化研究科二年　菅原　有子（平1卒）

母校での教育実習（本年六月）を通して、高校生の頃を思いだした。私たちが入学した頃は、女子は外国語コースのひとクラスで、四十人しかいなかった。あの頃は、女子クラスがどのように発展していくのか想像もつかなかった。私たちは、ひたすら、頑張るのみだった。なにせ、外国語コースの未来は、私たちの成果にかかっていたと言っても過言ではないほど、まわりからの期待は大きかったからだ。

入学する前から、「高校生になったら、中学生気分では困る。気を引き締めて、勉強するように」と言われ、入学した後も、毎日のように「勉強しろ」と言われた。きっと、それは、今も変わっていないのだろう。

幸い、私たちは一期生だったということもあり、先生がたはただ勉強しろと言うばかりでなく、質問しにいくといつも、親身になってくれた。私たちはついつい職員室に足を運ぶ毎日だった。分からないところは、そのままにしておかず、その日のうちに、先生に聞いて解決しておくべきである。教育実習をしていて思ったことだが、質問されると非常にうれしいものである。もちろん、自分の力で考えたのだが分からなかった、という姿勢は大切である。

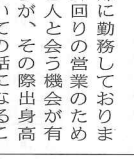
思い出してみると「勉強しろ」と言われていたわりには、私の高校生生活は本当に充実していたと思う。もしかすると、勉強と遊びのバランスがとれていたのかもしれない。最後に、私の好きなことわざをあげておく。

All work and no play makes Jack a dull boy

この精神は、非常に大切に感じる。

❖ 社会人一年生 ❖

河北新報社　栗原　将（平2卒）



私が育英学園を卒業してから四年になりますが、今年の四月に河北新報社に入社し、現在は広告局外務部に勤務しております。外回りの営業のため何かと人と会う機会が有りますが、その際出身高校についての話になることがよくあります。「育英出身です。」と答えると、たいてい「特進ですか？」あるいは「優秀ですね」と言われます。少々照れ臭い気がする一方で育英出身で良かったなと思う一瞬です。大学生活を東京で過ごしたため、仙台での生活は四年ぶりになりますがその間に育英学園の評判とこの評判を生む実績がかなり上がっているのを実感致します。OBの一人として嬉しい限りではありますが、卒業生として学園に何か出来る事はないであろうか、とも感じます。在校生の時に学校にお世話になった卒業生が、そのお礼の一つの型として母校を様々な面で支援するのはとても素晴らしいことではないでしょうか。当時のクラスメートを見てもあらゆる分野に貴重な人材として進出しており、これは他のいかなる学校にも劣るものではないと思っております。この有能な人的資源を結集し、母校の一層の発展に寄与して行きたいと考えます。

卒業してから何年たっても、母校の発展を願う気持ちは決して変わるものではありません。この想いを共有する者が交流を深めるために同窓会活動をさらに盛り上げていきたいと思います。

会報発行協力金の御礼とお願い

1,693名の方から835,800円の協力金が送金されました。平成6年度の予算に繰り入れ、通信費として会報送付のために使わせていただきます。

今回も郵便「払込取扱票」をお送りしますのでよろしくお願いします。

平成七年度 仙台育英学園同窓会 総会（全体会）と懇親会のお知らせ

母校創立九十周年を記念し、左記により、総会（全体会）・懇親会を開催します。母校より校長先生はじめ恩師をお招きし、楽しい会にしたいと思います。会員皆様の参加をお待ちしております。

日　時　平成七年八月二十六日㈯
会　場　パレスへいあん　電話　二六五―五一一一
会　費　五〇〇〇円（当日持参）

昭和35年卒(普)高同期会

会長　下山三千夫（昭35卒）

おじさん達、大志を抱け、昭和35年卒(普)高（第十二回生）の同期会が学校長代理今野仁教頭先生を迎えて、七月二十三日榴ケ岡メルパルク仙台で開催された。

母校にサヨナラを告げて久しぶりの再会でもあり、五十名を超す同期生が全国各地から集り、初回の会合としてはまずまずのものであった。

会は他界された同期生の黙禱に始まり、世話人代表の挨拶、すぐさま乾杯し、続いて教頭先生から母校の近況についてお話しを頂きました。

母校の躍進ぶりに一同感激した。

宴はフリータイムに入り各自が席を立ちテーブルを廻り歩き開口一番「オイしばらく、今、何をやっているんだ」と切り出し、名刺交換を盛んにくり広げていた。

その後、各クラスごとに壇上に昇り記念撮影。

そして自己紹介と続き自分を大胆にアピールしていた。勢いづいて母校への恩返しに寄付の申込者もでた。

五十三才、人生はまだ半分だ、ようやく時間の大切さを知る人は時間を待つことができるが、時間の方で人を待ってはくれない。

様々な会話から、あすへの活力とエネルギーが蓄積されおじさん達は、もうひと頑張りの意欲がでてきた。

心の通じる友と、にぎやかに語ることは人間の喜びと進歩でもある。

最後に皆で再会を誓い校歌斉唱、エールと続いた。母校の発展と同期生の一層の奮闘を祈念することで終了した。

その後、小グループを組み二次会へとくり出した。

第76回全国高等学校野球選手権大会

天理高、北陽高を連破し、ベスト8に!!

夏の甲子園大会では、同窓教員の渡辺部長、竹田監督、高橋コーチの指導のもとに、硬式野球部員がよく健闘し、天理高、北陽高を連破してベストエイトまで進出することができました。

甲子園賛助金に御礼

今回は会員全員にお願いすることはできませんでしたが、郵送によるものと、各支部から寄せられた賛助金は、母校教育振興会に納入しました。

賛助金をお寄せいただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

総会だより

◉平成六年度第39回

本年度から同窓生全員による総会は三年度毎となり、今年は代議員による総会が八月二十七日午後五時、例年の会場である〝パレスへいあん〟で開催されました。

母校より加藤昭理事長・校長・名誉会長をはじめ来賓の方々そして、多数の先生方のご出席をいただきました。総会で挨拶された加藤理事長から学園の現況について要旨、次のようなお話しがありました。

本学園は五千三百名の在校生を擁し、全国でも上位に入る私立高校であるが、宮城野校舎、多賀城校舎、松島校舎のキャンパス等で個性を伸ばす教育を力を入れております。昭和五十九年度から実施した県下初の総合コース制の成果も年々顕著になり、他の公私立高でも育英方式を採用するところが多くなりました。本年度の大学進学状況では六三七名もの生徒が大学に合格し、昨年より百名の増加であり、七百名の現役合格を目指し先生方も努力をしているところです。各種資格(英検、ワープロ検定、危険物取扱等)の取得を奨励していることもあり、就職も毎年百%を誇っております。

また、スポーツでの活躍は、テレビ、新聞紙上でもご承知のように、県大会での各種スポーツの優勝、準優勝は言うに及ばず、今や全国レベルで覇を競える選手を輩出しており、京都駅伝での男女アベック優勝、女子卓球の全国優勝、馬術での全国優勝、世界ジュニアゴルフでの優勝、世界ジュニア陸上での健闘等、今や名実共に多くの実績をあげており、本学園は隆盛発展の状況にあることを報告されました。出席者一同も、母校の発展充実に拍手を送り、更に協力することを確認し合いました。

総会での次第は左記の通りですが、協議事項は特に問題もなく承認、終了しました。

引き続き開催された懇親会では、会員の近況、母校の活躍に話が弾み、和気あいあいのうちに更なる発展を祈りつつ終了しました。

❖総会次第

一、開会の辞　司会　瀬戸　信男
二、会長挨拶　会長　小坂　信雄
三、理事長・校長(名誉会長)挨拶　加藤　昭先生
四、来賓挨拶　代表　小林慶三教頭(今野監事より来賓紹介)
五、議長推戴　会則十条により会長を推戴　小坂信雄氏
六、議案審議
1 平成五年度事業報告収支決算報告(原案通り承認)
2 会計監査報告　監事　大宮照夫氏
3 平成六年度事業案予算案の説明(原案通り承認)
七、その他
1 事務局長に宮本昇氏就任。
2 会報発行協力金千六百九十三名から八十三万五千八百円の送金があった。会報の発行は、総会の様子などを掲載したいので、今後は九月以降とする。

多賀城校舎・左からウエストウイング　ライオンズホール▼　イーストウイング

仙台育英学園同窓会役員名簿

平成5年8月～平成7年7月

役員名	氏名	卒業年	役員名	氏名	卒業年
名誉会長	加藤　昭		幹事	竹内竹美	昭19－旧中
名誉副会長	加藤雄彦		〃	福来　實	昭20－旧中
会長	小坂信雄	昭23－旧中	〃	佐藤七郎	昭25－普
副会長	大江田光雄	昭10－旧中	〃	津田司郎	昭26－普
〃	鈴木三郎	昭14－旧中	〃	森田　忠	昭29－普
〃	菊地育夫	昭35－商	〃	榊井庸彦	昭29－普
〃	池田友信	昭36－普	〃	桂島一男	昭29－普
参与	菅原勝時	昭3－旧中	〃	太田　宏	昭30－普
〃	山口俊夫	昭4－旧中	〃	佐々木三郎	昭30－普
〃	三浦憲之丞	昭8－旧中	〃	小野晋一	昭30－普
〃	新野養治	昭9－旧中	〃	佐藤吉男	昭30－普
〃	渡辺伊太郎	昭21－旧中	〃	猪股信克	昭32－普
〃	安達孝治	昭21－旧中	〃	高橋徳郎	昭32－普
〃	大学幹男	昭44－普	〃	三浦勝介	昭32－普
〃	渡辺公一	昭43－普	〃	佐々木政夫	昭34－普
〃	赤間次彦	昭50－普	〃	高橋松力	昭35－商
〃	村上英人	昭43－普	〃	大泉　康	昭36－普
監事	今野　仁	昭29－普	〃	佐々木　統	昭37－普
〃	大宮照夫	昭39－商	〃	菊地　博	昭37－普
〃	千葉俊行	昭46－商	〃	佐藤　健	昭38－普
事務局長	宮本　昇	昭33－普	〃	大泉　勲	昭39－普
事務局次長	塩釜直知	昭32－普	〃	早坂　敏	昭40－普
〃	瀬戸信男	昭44－商	〃	高橋　章	昭41－普
会計	大泉俊男	昭32－普	〃	木内一彦	昭42－普
〃	佐藤晃一朗	昭38－商	〃	鈴木堅司	昭42－商
〃	庄司和良	平1－普	〃	桜井七郎	昭42－商
総務部長	佐藤　悟	昭16－旧中	〃	鈴木　孝	昭42－商
総務副部長	本間秀幸	昭41－商	〃	三塚　信	昭43－普
〃	庄子富士雄	昭37－商	〃	丹野　博	昭43－普
事業部長	田所廣治	昭23－旧中	〃	中村　昇	昭43－商
事業副部長	鈴木正志	昭31－普	〃	熊坂勇一	昭44－普
〃	阿部　勲	昭35－商	〃	渡辺孝男	昭44－商
事務局幹事	菅野　武	昭19－旧中	〃	佐々木祝男	昭46－普
〃	大泉武満	昭19－旧中	〃	清野俊治	昭47－普
〃	千葉　了	昭25－普	〃	松井有紀	昭47－普
〃	小幡幸男	昭27－普	〃	漁野拓寿	昭47－商
〃	関根一郎	昭27－普	〃	安藤利夫	昭48－普
〃	高野史寿真	昭29－普	〃	久道周彦	昭50－普
〃	渡辺征夫	昭35－普	〃	伊沢正俊	昭52－商
〃	佐藤武夫	昭37－商	〃	渡辺基史	昭55－商
〃	今野良裕	昭44－普	〃	佐藤克徳	昭56－普
〃	佐藤正行	昭51－普	〃	門馬敏之	昭59－商
〃	佐々木英明	昭59－普	〃	張聞広基	昭62－普
〃	千葉　浩	昭62－特	〃	天江節子	平1－外
〃	藤田　功	平1－普	〃	板橋光恵	平1－外
幹事	高橋裕夫	昭14－旧中	〃	栗原　将	平2－特
〃	斉藤　正	昭17－旧中	〃	星　智子	平3－外

平成6年度大学合格者数

大学名	合格者数
国公立大学	計 51
東京大	1
一橋大	1
東北大	12
弘前大	1
山形大	7
北海道大	1
北海道教育大	1
宮城教育大	9
福島大	1
岩手大	7
秋田大	1
筑波大	2
千葉大	1
茨城大	1
東京外国語大	2
横浜国立大	1
宮崎医科大	1
都留文科大	1
所管外の大学	計 3
防衛大学校	2
防衛医科大学校	1
私立大学	計 491
慶應義塾大	6
早稲田大	3
上智大	1
中央大	1
明治大	5
青山学院大	4
國學院大	1
東京理科大	5
津田塾大	2
東京女子大	2
法政大	3
亜細亜大	1
東洋大	6
獨協大	3
東海大	11
大東文化大	4
明治学院大	5
共立女子大	2
東京国際大	5
東京経済大	2
専修大	1
朝日大	1
立命館大	9
同志社大	1
高千穂商科大	1
東京電機大	1
東京工科大	2
国士舘大	5
帝京技術科学大	1
東京成徳大	1
道都大	2
函館大	1
北海道工業大	1
札幌学院大	4
札幌大	2
東日本学園大	2
旭川大	1
北海道情報大	1
東北学院大	135
東北工業大	31
石巻専修大	15
東北福祉大	23
東北薬科大	3
仙台大	4
宮城学院女子大	9
東北芸術工科大	1
東北生活文化大	1
岩手医科大	1
盛岡大	1
秋田経済法科大	5
奥羽大	2
いわき明星大	7
青森大	6
八戸大	3
八戸工業大	13
富士大	9
常磐大	1
実践女子大	1
武庫川女子大	1
帝京大	4
日本獣医畜産大	1
麗澤大	6
清和大	1
日本大	15
駒澤大	1
多摩美術大	1
北里大	1
淑徳大	2
文化女子大	1
拓殖大	3
昭和女子大	1
二松学舎大	2
城西大	1
作新学院大	2
上武大	2
創価大	3
杏林大	2
文教大	5
大正大	3
産能大	2
武蔵工業大	1
武蔵野音楽大	1
武蔵野女子大	1
工学院大	1
文京女子大	1
中央学院	1
甲南大	1
神奈川大	3
白鷗大	3
八千代国際大	1
千葉工業大	1
埼玉工業大	1
東邦大	1
関東学院大	3
麻布大	1
和光大	1
東京工芸大	2
日本体育大	2
神田外語大	3
明海大	3
関東学院大	1
山梨学院大	1
高岡法科大	1
金沢医科大	3
金沢経済大	2
中京大	1
名古屋商科大	1
名古屋外国語大	3
京都精華大	1
京都外国語大	1
京都産業大	1
大谷大	1
大阪産業大	1
愛知工業大	1
愛知産業大	1
国公立短期大学	計 5
東北医療技術短大部大	1
宮城県農業短期大	3
静岡大工業短期大	1
所管外の短期大学	計 8
宮城職業能力開発短期大学校	6
宮城県農業実践大学校	1
山形県立産業技術短期大学校	1
私立短期大学	計 77
駒澤短期大	1
昭和女子短期大	3
拓殖短期大	1
東洋英和女学院短期大	2
帝京女子短期大	1
帝京短期大	1
共立女子短期大	1
目白短期大	1
跡見学園短期大	1
東京交通短期大	1
宮城学院女子短期大	13
仙台白百合短期大	9
尚絅女学院短期大	16
聖和学園短期大	1
いわき短期大	1
北海道自動車短期大	2
東北科学技術短期大	5
酒田短期大	7
札幌大女子短期大	1
水戸短期大	2
尚美学園短期大	1
鶴見女子短期大	1
湘南短期大	1
大妻女子短期大	1
産能短期大	3
外国系大学	計 2
インターナショナル・パシフィック大	1
ネバダ州立大	1

大学合格者総数 637名